

● 設計計算を行う際の注意事項は以下に示すとおりです。

- ✚ ユーザが入力できる箇所は、解析結果シート上部の「件名」、「実施年月日」、「担当者氏名」と下部の「特記事項」および青色のセル内の数字（構造設計条件）、データベースシートの青色セル内の数字で、その他箇所は保護されていますので、現在の状態では内容を変更することはできません。保護を解除するためのパスワードは“**himitsu**”です。
- ✚ 解析結果シートの青色セル内の数字のうち、セル下側、右側に(1)、(2)・・・と条件が示されている箇所は、条件番号をセル内に入力してください。この条件にしたがって黄色セルの設計条件が変更されます。
- ✚ 青色セル内の入力条件と黄色セルの設計条件の関係については、「舗装設計便覧」「コンクリート舗装ガイドブック 2016」を参照してください。
- ✚ 日交通量は、データベースシート内で入力可能です。実測値を用いる場合には、保護を解除して、データベースシート内に入力してください。
- ✚ 横目地での縦ひび割れを設計対象とする場合には、データベースシート内に走行頻度を入力してください。
- ✚ 解析結果シート内に赤文字で記したように、「舗装設計便覧」「コンクリート舗装ガイドブック 2016」内に示されているコンクリート版上下面の温度差とその発生頻度を用いない場合（実測値を用いる場合）には、コンクリート版厚は実測時の値を入力するとともに、データベースシート内に温度差と発生頻度を入力してください。
- ✚ シート内に記されている入力条件以外の記号のうち、「 $\Delta temp$ 」はコンクリート版上下面の温度差を意味しており、 $\Delta temp > 0$ は温度差が正、 $\Delta temp < 0$ 温度差が負であることを表しています。また、 C_w 、 C_L 、 C_T 、 γ_R はそれぞれ、そり拘束係数、横ひび割れを対象としたときの係数、縦ひび割れを対象としたときの係数、信頼度に応じた係数を表しています。
- ✚ 疲労曲線の選択条件「(1)実績式」は、“我が国のコンクリート舗装の実績によって検証されているもの（セメントコンクリート舗装要綱に示されていたもの）”で、「(2)実験式」は“最近の研究成果によって定められたもの”です。
- ✚ 解析結果シートに表示されている疲労度 FD の値は、「舗装設計便覧」「コンクリート舗装ガイドブック 2016」での設計例と多少異なります。これは、計算に使用する数字の小数点以下の桁数が異なっているためです。

[重要]

本 Excel ファイルは、フリーダウンロードとして広く活用していただくことを目的としたものであり、ファイルの使用に際しては以下の事項に同意したものとみなします。

- ① ファイルの第三者への再配布はしないこと。
- ② 本ファイルおよびデータの使用によって生じる、直接・間接を含むいかなる損害に対しても、日本道路協会は一切の責任を負わないことに同意すること。

(以上)